

CP-4-II-02	総合薬学演習 I	第 4 学年	前・後期 必修	3 単位
担当者	薬剤師教育研究部門（浅井、久保、大野、山内(理)）、薬学教育モデル・コアカリキュラム（コアカリ）関連教科担当教員			
一般目標（GIO）	病院・薬局実務実習で必要な知識を確認するために、4 年次までに学んだ薬学教育モデル・コアカリ及び実務実習モデル・コアカリの重点ポイントを復習し、実務実習の基礎となる知識を修得する。			
到達目標（SBOs）	薬学教育モデル・コアカリ及び実務実習モデル・コアカリの範囲について 1. 各領域の重点ポイントとなる基礎的な知識を列挙できる。 2. 各領域の重点ポイントとなる基礎的な知識を説明できる。 3. 与えられた課題に対する適切な解決策を提案できる。			
受講心得・準備学習等	単に問題の正誤だけでなく、学んだ知識を生かせるよう、自ら思考の筋道をたて、整理・統合を心がけてほしい。疑問点は放置しないで積極的に質問すること。 各回の講義の後に、十分に復習することが望ましい。			
事後学習・復習等	担当教員によるオムニバス形式の演習講義であるため、各回の講義内容を十分に復習し、知識を整理し定着を図るとともに、演習問題を解答できる力を養っておく必要がある。さらに学力を確かなものとするために、コンピュータ教育支援システムを用いて、課題演習を行う。			
オフィスアワー	薬剤師教育研究部門：水曜日 17：00～19：00、木曜日 16：00～18：00			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義形式で各領域の重点ポイントについて演習を行う。別にコンピュータ演習を課す。
回	項目	講義内容
1～4	物理系薬学	C1 物質の物理的性質
		C2 化学物質の分析
		C3 生体分子の姿・かたちをとらえる
5～8	化学系薬学	C4 化学物質の性質と反応
		C5 ターゲット分子の合成
		C6 生体分子・医薬品の化学
		C7 自然が生み出す薬物
9～12	生物系薬学	C8 生命体の成り立ち、
		C9 生命をマイクロに理解する
		C10 生体防御
		C17-3 バイオ医薬品とゲノム情報
13～18	健康と環境	C11 健康（栄養と健康、社会・集団と健康、疾病の予防）
		C12 環境（化学物質の生体への影響、生活環境と健康）
19～26	薬と疾病 I	C13 薬の効くプロセス(1)～(3)（薬の効き方）
		C14 薬物治療（疾患と薬物治療）
		C15 薬物治療に役立つ情報（医薬品情報、患者情報、テーラーメイド治療）
27～32	薬と疾病 II	C13 薬の効くプロセス(4)(5)（薬物の臓器への到達と消失、薬物動態）
		C16 製剤化のサイエンス（製剤材料、剤形、DDS）
33	薬と疾病 III	C17 医薬品の開発と生産
34～36	薬学と社会	C18 薬学と社会（法律と制度、社会保障制度と薬剤経済）
37～38	実務実習事前学習	D1 実務実習事前学習（処方せんと調剤、疑義紹介、医薬品の管理と供給）

成績評価の方法	前期（中間試験）及び後期の定期試験の点数により評価する。
成績評価の基準	教務規程に準拠し、定期試験の正答率 60 % 以上を合格とする。
教科書	原則、プリントを用いる。
参考書など	講義中に適宜提示する。